

# 令和5年度 学校評価報告書



幼保連携型認定こども園

青葉幼稚園

## 1. 本園の教育・保育目標等について

### (1) はじめに ～『0歳からのようちえん』を掲げて～

本園は創立以来70年あまりにわたって築いてきた幼児教育の裾野をさらにひろげ、令和2年4月から「幼保連携型認定こども園青葉幼稚園」となった。

認可幼稚園と認可保育園が一緒になった幼保連携型認定こども園として、「0歳からのようちえん」を掲げ、人間の基礎を作る大切な時期である乳幼児期において一貫した教育・保育の提供を行う。

### (2) 教育・保育理念

「清く、明るく、正しく、直く」

～きよらかな、すなおな、ただしく、あかるい人間の育成～

### (3) 教育・保育目標

創立以来の建学の精神である神社神道の精神を基に、将来を担う人として重要な乳幼児期における素地を培うよう努めるとともに、生活を通して生きる力を育成するように認定こども園法第9条に規定する教育及び保育の目標の達成に努める。

### (4) めざす子ども像

1. 感謝の心、やさしい心、敬う心をもつ子ども
2. 自然・生命を大切にすること
3. 正しい姿勢と言葉遣い、元気なあいさつ・返事ができる子ども
4. ルール、約束を理解し守る子ども
5. 相手の気持ちを大切に、仲良くかかわることができる子ども
6. 感情豊かで、自ら言葉で伝えることができる子ども
7. 健康で明るく元気な子ども
8. 主体的に取り組み、最後までやり抜く力のある子ども

### (5) 令和5年度の主題及び重点事項

#### ①主題

「体験を通して、主体的に遊びを展開する子どもを育てる」

#### ②重点事項

1. 身近な事物に自ら関わり、豊かな感性や表現を培う。
2. 基本的な生活習慣を身につけ、健康に過ごす。
3. 人との関わりの中で思いやりや協調性、道徳性を育てる。
4. 子どもの自主性を大切に一人一人の望ましい発達をめざす。
5. 関係機関や保護者との連携を密にした支援に努める。
6. 教育方針及び「10の姿」を見据えた小学校との連携・接続をはかる。
7. 未就園児サークル、園庭開放、相談等を中心とした子育て支援を展開し、地域の子育て支援センターとしての役割を果たす。

## 2. 令和5年度の評価について

### (1) 保護者アンケートによる評価について

<b>【評価基準】</b>	
A	十分達成されている（おおむね80%以上）
B	ほぼ達成されている（60%～80%くらい）
C	取り組まれているが成果が十分でない（40%～60%くらい）
D	取組が不十分である（40%以下）
E	わからない

#### ①目標に基づくアンケートの項目及び結果

	評価項目	A	B	C	D	E	無回答
1	子どもは園に行くのを楽しみにしている	67%	27%	5%	0%	0%	0%
2	子どもたちは安心して自分の思いを出し、元気に遊んでいる	73%	23%	0%	1%	0%	0%
3	友達と一緒に遊んだり友達の遊びに刺激を受けたりして、共に過ごすことの楽しさを味わっている	86%	13%	1%	0%	0%	0%
4	遊びや集団生活に必要な決まりを知り、守ろうとする態度が育ってきている	70%	27%	2%	0%	1%	0%
5	様々な物事に興味関心を示し、知的好奇心や思考力、感動する心などが育ってきている	80%	17%	2%	0%	2%	0%
6	自ら遊びを作り出す楽しさを味わい、園生活を楽しんでいる	78%	20%	2%	0%	1%	0%
7	子どもは遊びの楽しさや達成感を味わい、自信をもって行動できるようになってきた	60%	33%	3%	0%	2%	0%
8	集団の中で、一人一人の幼児が自己を発揮し、互いに力を生かし合いながら、共に学び合う様子が見られた	58%	35%	3%	1%	2%	0%
9	クラスの中で幼児一人一人が大切にされている	71%	23%	3%	1%	1%	1%
10	人に対する信頼感や思いやりの気持ち、自己抑制力などが育ってきている	50%	41%	5%	1%	3%	0%
11	幼児は家族や近所の人、教職員などに、よくあいさつをしている	37%	43%	17%	2%	0%	0%
12	幼児はしっかり体を動かし、体力が向上したり、たくましさが育ったりしてきている	74%	17%	7%	0%	2%	0%
13	生命を尊重する心や自然を大切にする気持ちが育つような取り組みがされていた	59%	35%	2%	0%	3%	1%
14	園は一人一人の幼児の育ちを保護者に伝えている	62%	27%	9%	2%	1%	0%
15	園は幼児の発達などに気付く機会をつくっている	59%	31%	5%	2%	3%	0%
16	園は悩みや相談に親身になって対応してくれる	69%	21%	5%	2%	2%	1%
17	保護者同士よく挨拶し、親しく交流できていると思う	32%	43%	12%	6%	6%	0%
18	保護者は関心が高く協力的であると思う	34%	41%	11%	1%	12%	1%
19	教育方針や指導の重点は、幼児や家庭・地域の実態にあったものだと思う	56%	32%	5%	2%	5%	0%
20	園は教育目標や指導の重点について分かりやすく伝えている	55%	34%	7%	2%	2%	0%

②アンケートによる評価の総括

今年度も概ねAまたはBの評価を多く頂き、さらに前年度と比較しても全体的にBからAへの評価割合のシフトが多く見られ、全体として良い評価への割合の移動があったのは良かった。一方C以下の評価についても全体的に微減したが、一定割合があった。特に昨年度も挨拶や保護者の参加といったところにその傾向がみられた。新型コロナウイルス感染症の5類移行後、徐々に活動を増やしてきたが、保護者参加の行事や保護者会活動等については十分に行えなかった。次年度以降それらの機会の提供に努めたい。

(2) 教職員による自己評価について

●対象教職員数 19名

1…よくできている 2…まあまあできている 3…あまりできていない 4…まったくできていない

I 保育の計画性		1	2	3	4
内 容					
1、園の教育・保育理念及び方針の理解					
①	園の教育・保育理念や方針を理解し共感している	11%	73%	16%	0%
②	園の教育・保育理念や方針について保護者に説明できる	0%	63%	32%	5%
2、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解					
①	幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解し、幼児の姿や環境の構成、保育教諭等のかかわりなど具体的な事例を思いうかべることができる	5%	79%	16%	0%
3、教育・保育課程の編成と評価					
①	教育・保育課程は、幼保連携型認定こども園青葉幼稚園教育・保育要領をふまえて園の教育・保育理念及び方針に従い編成している	11%	68%	16%	5%
②	1年間の子どもの成長を振り返り、教育・保育課程を評価している	32%	63%	5%	0%
③	教育・保育課程は、社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮しながら必要に応じて見直しを行っている	21%	58%	21%	0%
4、指導計画の作成					
①	指導計画は、幼児の興味や関心、これまでの生活や予想されるこれからの生活などを考慮し作成している	37%	58%	5%	0%
②	行事は、幼児の生活上の意義を十分検討した上で、指導計画に組み入れている	21%	68%	11%	0%
5、環境の構成					
①	指導計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような安全で清潔感のある環境構成をしている	21%	63%	16%	0%
②	楽しい雰囲気の中で、安定して遊び込めるように遊具や用具、素材など質・数量を配慮して環境構成をしている	32%	36%	32%	0%
③	幼児の活動がより豊かになるように幼児の発想を柔軟に取り入れ、活動の展開に応じて環境の再構成をしている	5%	69%	21%	5%
④	幼児の発達や生活を見通し、季節の変化に応じた環境構成をしている	16%	68%	11%	5%
⑤	異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている	21%	21%	53%	5%
6、教育・保育と計画の評価・反省					
①	自分の教育・保育と評価・反省について次の保育と計画に生かせるように行っている	16%	68%	16%	0%
②	お互いに教育・保育を見せ合い、検討し、評価・反省を加え、幼児の生活と自らの教育・保育につなげている	0%	68%	32%	0%

- ・前年度と比較すると、全体的にできていると回答する割合が増えた。
- ・理念や方針について保護者に説明できるかについては昨年度よりできると回答する割合が多くなったが、1の回答が今回も0%であったため、更なる改善が必要である。
- ・お互いの教育・保育を見せ合って自らのことにつなげることができているかについては、前年度よりできていないと回答する割合が増え、1と回答したのは0%であった。これは昨年度定期的な園内公開保育の機会を提供できなかったことが大きな要因と思われる。次年度以降機会の提供ができるように取り組みたい。

II 保育の在り方、幼児への対応					
内 容		1	2	3	4
1、健康と安全への配慮					
①	朝の登園時は特に視診を大切に幼児の体調が悪くないかを確かめている	63%	32%	0%	5%
②	体調が悪そうな時は静かに寝かせたり検温をするなど適切な処置を行いすぐに家庭へ連絡している	74%	16%	5%	5%
2、幼児のみとりと理解					
①	幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察し、基本的欲求が十分満たされる様配慮している	53%	47%	0%	0%
②	一人の幼児をじっくりと見ながら見えない所で活動したり遊んでいる幼児についても、ある程度その活動の様子を推察することができる	32%	63%	0%	5%
③	個々の幼児の発達の姿や課題について見通しをもって理解できる	11%	63%	26%	0%
3、指導とかかわり					
〔心のよりどころとして〕					
①	幼児一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受入れ認めるようにしている	47%	48%	5%	0%
②	幼児との温かなやりとりやスキンシップを常に心掛けている	74%	26%	0%	0%
③	幼児の話をよく聞くようにしている	63%	37%	0%	0%
④	“一人一人”と“みんな”の関係を常に考え、クラス集団をまとめている	26%	53%	11%	11%
〔遊び・活動の援助者として〕					
①	幼児が遊びや活動を深めていくためのヒントやアイデアを提供している	11%	47%	37%	5%
②	幼児をほめたり、励ましたり、めあてをもたせるような言葉かけをしている	58%	42%	0%	0%
③	禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせることばや態度はできるだけ控えている	42%	47%	11%	0%
〔その他〕					
①	幼児の家庭環境や、これまでの成育歴などを考慮してかかわっている	32%	58%	0%	5%
②	障がい児が入園した時、個別的対応やクラスの子どもとともに育ち合える保育を積極的に進めるように考えている	32%	32%	21%	15%
4、職員同士の協力・連携					
①	クラスに関係なく、その場にいた保育教諭等が適切な言葉かけや対応をしている。また、情報を共有している	32%	63%	0%	5%
②	指導上配慮を必要とする幼児については、園全体で特によく話し合い、共通理解をもって、工夫し対応するようにしている	37%	63%	0%	0%
③	他クラスや異年齢の幼児たちと触れ合うようさまざまな工夫、保育の形態を取り入れている	16%	42%	42%	0%

・この項目については全体的に高い傾向が見られ、概ね達成されていると思われる。引き続き子どもへの対応の充実を図っていきたい。

III 保育教諭等としての資質や能力・良識・適性					
内 容		1	2	3	4
1、専門家としての能力・良識・義務					
〔専門家としての能力〕					
①	保育にたずさわる者として、専門知識や技能を身につけている	5%	79%	16%	0%
②	保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことを分かりやすく話すことができ、保護者との信頼関係をつくることに努めている	37%	58%	5%	0%
③	保育教諭等並びに他職員が仕事の手順を考え、能率よく行っている	16%	58%	21%	5%
④	保育教諭等の人間性が子ども達に影響を与えることを自覚している	58%	42%	0%	0%
〔良識とマナー〕					
①	幼児や保護者との対応には、公平さを欠かないようにしている	74%	26%	0%	0%
②	朝と帰りのあいさつは明るく親しみを込めて行い、感謝の気持ちを言葉などで表わしている	68%	32%	0%	0%
③	園の消耗品や教材は節約して使い、私用に使っていない	74%	21%	5%	0%
④	服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全性にも気をつけている	79%	21%	0%	0%
〔義務〕					
①	教材、教具の管理、点検、園内外の清掃や整理整頓を実行している	21%	58%	21%	0%
②	締切りのある仕事や提出物の締切日、会議や打ち合わせの時間をきちんと守っている	47%	16%	32%	5%
2、組織の一員としての在り方					
①	他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるができる	37%	47%	16%	0%
②	子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談している	53%	37%	10%	0%
③	当番や役割による仕事を理解し確실히行っている	47%	48%	5%	0%
④	上司の指示、命令には責任を持って実行している	58%	37%	5%	0%
3、まわりを感じ取れる感性・アンテナ					
①	幼児や教育・保育に関する情報を日頃から得ようとしている	26%	48%	26%	0%
②	社会情勢や季節の変化などを感じ取る感受性を大切にしている	26%	58%	16%	0%

・この項目についても全体的に評価の高い傾向が見られるが、引き続き研修等を通じて職員の資質等の向上を図っていきたい。

IV 保護者への対応・守秘義務					
内 容		1	2	3	4
1、情報の発信と受信					
①	一人ひとりの子どもについて、家庭での養育方針などを把握している	21%	58%	21%	0%
②	クラスだよりなどで、保育実践の内容や意図・クラスや子どもの様子を、写真やイラストなどを活用してわかりやすく伝える工夫をしている	32%	63%	0%	5%
③	個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、連絡帳、電話などを使って伝え合っている	42%	53%	0%	5%
④	保育参観や保護者面談を定期的に行い、子どもについて、保育や家庭でのあり方について共通理解を得るように努めている	21%	68%	6%	5%
⑤	定期的にアンケート等にて保護者の要望を聞き、子どもにとってよりよい環境づくりに努めている	5%	47%	27%	16%
⑥	保護者との情報交換の内容を、必要に応じて記録している	21%	53%	16%	5%
⑦	子育てや就労を支えるために、保護者の気持ちに配慮しながら接するよう努めている	47%	53%	0%	0%
2、協力と支援					
①	保護者からのさまざまな訴え、要望、意見については安易に受けたり、断ったり無視したりしないで、園長や主任等に報告や相談をしている	53%	42%	5%	0%
②	必要な場合は、自園の苦情解決システムについて保護者に説明できる	11%	11%	62%	16%
3、守秘義務の遵守					
①	教職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らしていない	79%	21%	0%	0%
②	秘密情報（保護者・園児等に関する個人情報、および園の運営上の情報、保育技術・保育計画等の情報）については園長の許可なく使用、開示、漏洩していない	89%	11%	0%	0%
③	秘密情報の記録が破損、改造されないように管理している	84%	11%	5%	0%
④	秘密情報の帰属は園または法人にある事を認識し、書類、電子データは持ち帰らないようにし、どうしても必要な場合は持ち出し届出許可書にて園長の許可を取っている	42%	26%	21%	11%
⑤	秘密情報の書類、電子データのコピーは施設長の承認を受けた物のみ、必要最小限にし、必要なくなった場合は適切に処分している	63%	21%	11%	5%
⑥	秘密情報について新たに知れたことについては、直ちに園長に報告している	68%	11%	5%	16%
4、対応上のマナー・良識					
①	正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いて話しかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている	42%	47%	11%	0%
②	親しくなったからといっても、友達同士のような話し方をしていない	58%	32%	10%	0%
③	電話では、簡潔に要領よく対話する事を心がけている	63%	32%	5%	0%
④	保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応している	63%	32%	5%	0%
⑤	長期の欠席や入院等の場合には、見舞ったり、園やクラスの様子を伝えたりしている	37%	42%	0%	21%
⑥	保護者の国籍、思想、宗教により、また、子どもの性差、障害、個性差によって、区別、差別していない	84%	16%	0%	0%
5、クレームへの対処の仕方					
①	保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に連絡、報告、相談している	68%	26%	6%	0%

・全体的には肯定的な評価が多かったが、秘密情報については必ずしもよくできていない結果であったと思う。日頃からの啓発、研修等を通じて管理を徹底させていきたい。

V 地域の自然や社会とのかかわり					
内 容		1	2	3	4
1、地域の自然・人々とかかわり					
①	地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている	58%	42%	0%	0%
②	地域の自然や機関を指導計画の中で位置づけて活用している	21%	47%	21%	11%
③	子どもの医療や保健に関する問題および地域の住民から受けた子育て相談の内容について、相談および連絡先を把握している	21%	21%	37%	21%
④	実習生を受け入れるときは、意義や方針を理解し、指導的立場で接している	26%	53%	11%	10%
⑤	中高生の保育体験、ボランティアを受け入れるときは、その目的や意義を理解・確認している	21%	63%	11%	5%
2、小学校との連携					
①	園の教育・保育内容が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを理解している	42%	53%	0%	5%
②	小学校の教育内容について理解するよう努めている	21%	37%	26%	11%
③	卒業した子どもの情報を得るよう努めている	16%	26%	16%	16%
④	小学校が、園での子どもの育ち等について、どのような情報を必要としているか理解するよう努めている	16%	32%	26%	16%
3、地域の特徴を生かした保育の展開					
①	地域の環境を生かした保育を実践している	16%	58%	21%	5%

・今年度は米作りの他にひまわり苗植え等での交流があったが、全体的な評価は前年度とあまり変化が見られなかった。次年度には新たな活動が展開できるよう、地域との連携についても図っていききたい。

VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度					
内 容		1	2	3	4
1、研修・研究への意欲・態度					
①	研修会や研究会には自己課題をもって参加し、事前にその内容を確認したり自分なりの考えをまとめている	11%	53%	26%	5%
②	自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行うとともに、保育のあり方や悩みについて他職員や主任、園長と話し合っている	16%	47%	37%	0%
2、遊具・教材に関する専門性の向上					
①	園の遊具や教材についてその特徴や基本的な使い方を知っている	37%	63%	0%	0%
②	園の遊具や教材についてどんな使い方をするのか、どのような使い方が危険か予測できる	47%	53%	0%	0%
3、園内の環境に関する専門性の向上					
①	園舎の構造や保育室・遊戯室等の位置・大きさがどのような教育的な意味をもつか理解している	26%	32%	42%	0%
②	園庭や砂場、かくれ場所などの位置、広さなどがどのような教育的な意味をもつか理解し、保育に生かしている	16%	42%	42%	0%
4、今日的課題に関する専門性の向上					
①	子どもを取り巻くさまざまな状況について、背景・原因・実態はどうであるか興味・関心をもっている	32%	58%	11%	0%
②	アレルギー・自立の遅れなど、最近多く見られる問題について興味・関心をもっている	42%	53%	5%	0%
③	幼保小連携の意義やあり方について興味・関心をもっている	32%	63%	5%	0%
④	子どもたちの安心・安全に関する危機管理について興味・関心をもっている	53%	47%	0%	0%
5、自らを高めるための学習					
①	保育の専門知識や技能のほかに趣味や読書、ボランティア活動等にも関心がある	32%	26%	37%	5%

・前年度と比較すると全体的に高評価へのシフトがみられた。今後も研修等の機会の提供に努め、専門性を高められるようにしていきたい。

VII 保育の在り方、3歳未満児への対応					
内 容		1	2	3	4
1、健康と安全への配慮					
①	朝の登園時は家庭からの連絡をもとに視診・触診をして、乳幼児の健康状態を確認している	58%	37%	5%	0%
②	体調が悪そうな時は静かに寝かせたり検温をするなど、適切な処置を行いすぐに家庭へ連絡している	74%	26%	0%	0%
③	保護者から健康状態などの申し出を受けるなど、乳幼児の健康情報を共有し、アレルギー、熱性痙攣、脱臼癖などの既往症について把握している	57%	21%	11%	11%
④	体重・身長などの測定を定期的に行い家庭に知らせるとともに、バランスの取れた発育が促されるように配慮している	47%	37%	5%	11%
⑤	家庭と連携をとりながら一人ひとりに合わせて離乳食の移行を行い、様々な食品に慣れ、食への意欲を育てている	42%	11%	47%	0%
⑥	睡眠が十分とれるような静かな環境を整え、午睡の状態（呼吸・顔色・嘔吐・汗）、およびSIDS（乳幼児突然死症候群）のチェックを記録している	26%	21%	53%	0%
⑦	一人ひとりの排泄間隔を把握し、その子の排泄のリズムに合わせて、オムツ交換をしたり、トイレに促している	57%	32%	11%	0%
2、乳幼児のみとりと理解					
①	乳幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察して受け止め、信頼関係を築いている	47%	32%	21%	0%
②	一人一人の乳幼児の発達課題について見通しをもって保育している	37%	37%	16%	10%
3、指導と援助					
[心のよりどころとして]					
①	落ち着いた雰囲気の中で抱いたり語りかけたりして、乳幼児が人とのかかわりの楽しさや心地よさを味わえるようにしている	47%	48%	5%	0%
②	泣いたりぐずったりのサインを見逃さず、要求に応じた適切な対応をしている	47%	53%	0%	0%
[遊び・活動の援助者として]					
①	乳幼児の心身の発達及び生活の連続性に配慮し、好奇心や発達を促す環境を整えて保育をしている	32%	42%	26%	0%
②	自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとり、安心感と自己肯定感がもてるような言葉がけをしている。	42%	42%	11%	5%
③	禁止語を不必要に用いないようにしている	47%	37%	16%	0%
[その他]					
①	乳幼児期は身体的条件や生育環境などの違いにより、一人一人心身の発達に個人差が大きいことを理解し関わっている	53%	47%	0%	0%
4、保育教諭等同士の協力・連携					
①	保育教諭等全員が情報を共有し、クラスに関係なく、その場にいる保育教諭等が適切な言葉かけや対応をしている	47%	42%	11%	0%
②	指導上配慮を必要とする乳幼児については、園全体で話し合い共通理解をもって対応するようにしている	26%	53%	21%	0%
③	他クラスや異年齢児との触れ合う機会がもてるようにさまざまな工夫、保育の形態に配慮している	15%	53%	32%	0%

・全体的には前年度より高評価となる傾向が見られた。認定こども園移行4年目となり、徐々に理解が浸透してきていると思うが、今後も以上児、未満児の境なく一貫した教育・保育への理解と取り組みができるようにしていきたい。

### (3) 令和5年度全体の総括と今後の取り組みについて

今年度は本園にとって幼保連携型認定こども園に移行して4年目であったが、職員のアンケート結果からは全体的に高評価の回答へとシフトしてきた。職員にもある程度の自信をもって取り組むことができてきたのではないと思う。また、保護者アンケートでも全体的に前年度より高評価をいただく傾向があったことはよかった。「アフターコロナ」を迎えてそれまでに比べ様々な活動に取り組むことができ、特にSDGsを通じた教育・保育活動にも取り組んだことも、今回の評価に影響があったと思う。

次年度は今年度取り組んだ内容のさらなる展開をはかって教育・保育活動の充実を図りながら、職員及び園全体の質向上につながるよう、研修や業務の見直し等にも取り組んでいきたい。